

繋ぐ

広報かまいしは多くの人の支えにより、市民の皆さんと行政とをつなぐことができます。今回はその中から3つの団体を紹介します。

視覚障がい者にも「読む」選択を

声の広報



私たちは、昭和47年から視覚障がいのある人向けに「声」で広報かまいしの情報を届けています。毎月第3または第4水曜日に釜石市身体障害者福祉センターに集まり、9人のメンバーが活動しています。記事ごとに担当を決め練習をしてから、録音を行います。

実際に聞いている人の顔を思い浮かべ、間に気をつけながら読むと、より声に力が入ります



この活動を30年以上続けている川畑さん(左)

メンバー募集

少しでも活動に興味がある人はぜひ見学にお越しください。
問い合わせ 代表 柏木 ☎22-1157

点字広報 楽点舎

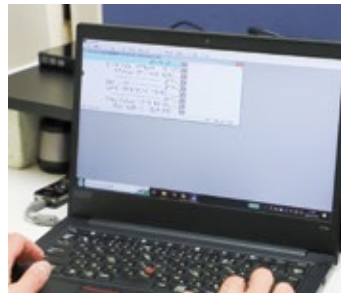


自身も視覚障がい者であり、この活動を15年以上続ける楽点舎代表の小笠原さん

私たちは、平成16年から視覚障がいのある人が点字でも広報を読めるようにと「点字広報」を始めました。

現在は7人でシフトを組み、それぞれの自宅でパソコンを使い活動しています。音声サポートなどの技術が進歩する中で、点字を読める人が少なくなっているのが現状ですが、点字は自分のペースで、好きなページを読めるなどの良さもあります。

これからも年に1回の点訳者養成講座を通して、点訳できる人を育成しながら、活動を続けていきたいです。



パソコンの点訳プログラムを使い、広報の原稿を点字に変換し、レイアウトを整え作成します。

地域の人たちとのつながりが励みに



釜石市行政連絡員連合会会長 小野寺省三さん

行政連絡員は毎月2回、広報の配布を行っています。中には、山間部の地区や広範囲にわたる地区もあり、夏の暑い時期や冬の寒い時期には苦勞をすることもありますが、一方で「ごくろうさま」と地域の人に声をかけてもらうことも多く、「地域の人たちとのつながり」が励みとなり、やりがいも多い仕事です。地域の人と会話しながら活動する中で、特に高齢者の一人暮らしの世帯は、対面で配布をして小さな変化にも気づけるように心掛けています。時には、会話が弾みすぎて、長居をしてしまう時もあります(笑)

今後でもできる限り続けて、地域と行政をつなぐ架け橋となれるように頑張ります。



おかげさまで 1800号!

昭和30年の発刊以来、67年間にわたり発行を続けてきた『広報かまいし』が今号で1800号を迎えました。今回は、広報の作成を支えている人たちの活動を紹介し、これまでの広報記事から、釜石の歩みを振り返ります。

